

各 位

科研製薬株式会社

**科研製薬と楽天モバイル、「満足プロジェクト」発足記念セミナーを開催
整形外科と皮膚科の専門医が診療科横断的に足と爪の健康について意見交換
「楽天シニア」コラムのユーザーアンケート結果を公開**

科研製薬株式会社（本社：東京都文京区、社長：堀内 裕之、以下「科研製薬」）は、健康寿命延伸サポートサービス「楽天シニア」を提供する楽天モバイル株式会社（本社：東京都世田谷区、代表取締役社長：矢澤 俊介、以下「楽天モバイル」）と合同で「人生100年時代に向けて『満足プロジェクト』発足記念セミナー」を2025年3月14日（金）に開催しました。

当日は、NTT 東日本関東病院 院長・ロコモチャレンジ！推進協議会委員長の大江 隆史先生と埼玉県済生会川口総合病院 皮膚科主任部長・足育研究会代表理事の高山 かおる先生にご登壇いただきました。まず、科研製薬と楽天モバイルより、足の健康が満たされる＝満足【満ち足りる】というコンセプトで発足した『満足プロジェクト』について紹介した後に、各先生方より足と爪の健康を保つことが人生100年時代の健康管理につながるというご講演と、楽天シニアのユーザーアンケート結果について解説いただきました。



左から、科研製薬 小関、大江先生、高山先生、楽天シニア 平山氏

■科研製薬と楽天シニアが取り組む「満足プロジェクト」の意義や展望

セミナー冒頭に、主催の科研製薬の営業本部長小関智之が登壇しました。これまで、科研製薬で行ってきた足に関する疾患啓発活動が、患者さんの最終目標である「歩くことができるよろこび」に寄与できているかどうか、把握しづらいという課題がありました。満足プロジェクトは、シニア世代に向けた様々なサービスを提供する楽天シニアと協働し、歩くうえで大切な足(下肢)に注目し、関連する製品の提供や各種活動を通して、いつまでも自分の足で歩ける社会の構築を目的に発足しました。また、当社は医療従事者向け、楽天モバイルは一般ユーザー向けのオウンドメディアをそれぞれ立ち上げ、企業や団体、自治体など一緒に足の健康のためのコンテンツを企画・立案していきます。医療従事者向けの会員サイト『KAKEN Medical Pro』は、3月下旬(3月27日)に開設予定です。より多くの医療従事者の方々に会員登録いただきたいです」と結びました。



「楽天シニア」事業長の平山優氏からは、『満足プロジェクト』は科研製薬の企業理念「患者さんのよろこび」「社会のよろこび」「社員のよろこび」に賛同して立ち上げたプロジェクトです。今後の日本の健康寿命の延伸に一石を投じるものと確信しています。「楽天シニア」は楽しく健康に安心して暮らせる社会を目指すプラットフォームサービスです。歩くうえで大切な運動器をおろそかにせず、正しい知識で病気を予防できるよう、楽天シニアのアプリを通してシニアの皆様の考え方をアップデートしていきたいと考えています。今後の展望として、オンラインとオフラインの両方で疾患啓発、データを活用した実証実験やエビデンス検証など、人生100年時代の生活習慣をトータルでサポートしていく予定です」と今後の取り組みを説明しました。



■「爪は小さな運動器」整形外科と皮膚科のコラボレーションによる対談が実現

NTT 東日本関東病院院長、ロコモチャレンジ！推進協議会委員長の大江隆史先生からは、運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態＝ロコモティブシンドローム*についてご講演いただきました。「高齢になって足腰が衰えることはロコモとほぼ同じことです。ロコモが進むと要介護につながるケースもあります。人の移動(二足歩行)＝ロコモーションとは、歩きながら道具を使ったり物を運んだりすることがベースであり、生活するためには歩く力を維持しなければなりません」と強調されました。



次に「楽天シニア」のアンケートについて、「ロコモ度**テストの回答が 19,000 件以上集まっていることは素晴らしいことです。調査の結果、一日の歩数が 1,000 歩以下の人と 6,000～8,000 歩の人のロコモ度の内訳を比べると、前者は年齢が上がるにつれてロコモ度が上がっていますが、後者は年齢によるロコモ度の差が小さくなり、日ごろ歩いている人は年齢に関係なくロコモ度が低い傾向が見られました。これは歩行がロコモ度の改善につながりうるという、非常に興味深い結果です（図 1）」とコメントされました。

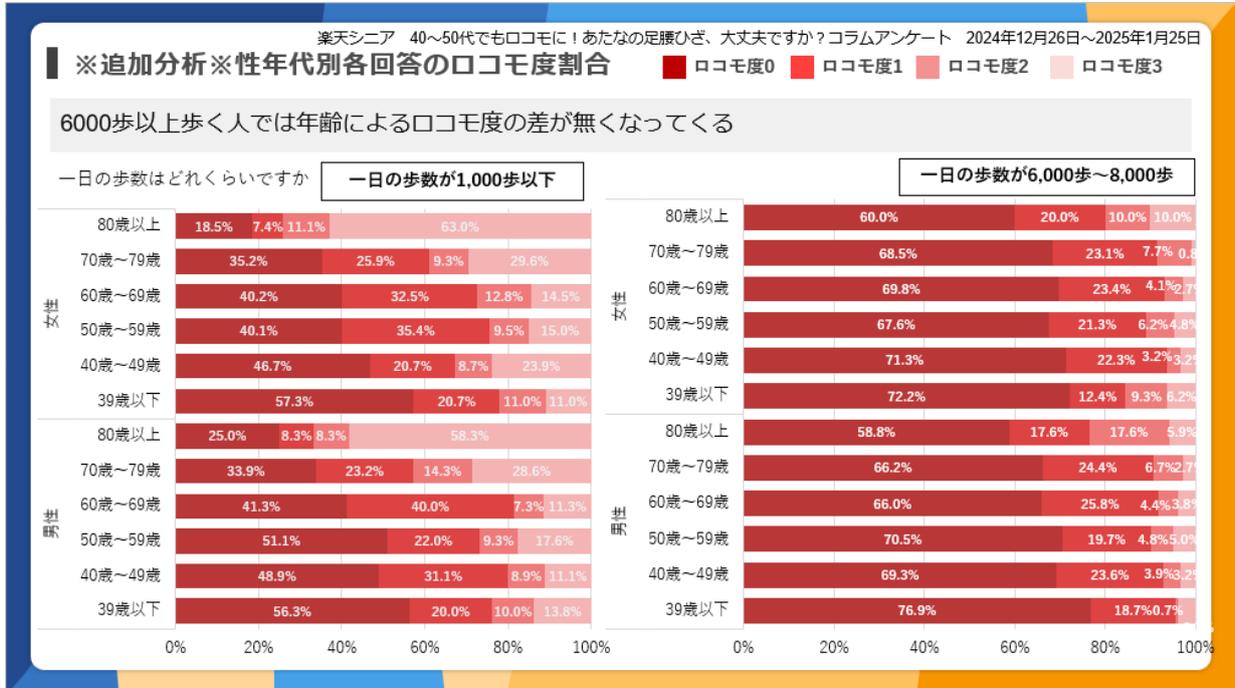


図 1 性年代別各回答のロコモ度割合

楽天シニア 40～50代でもロコモに！あなたの足腰ひざ、大丈夫ですか？コラムアンケート 2024年12月26日～2025年1月25日

続いて、埼玉県済生会川口総合病院 皮膚科主任部長・足育研究会代表理事の高山かおる先生が登壇し、大江先生のロコモティブシンドロームのお話を受けて、「アクティブシニアとノンアクティブシニアの狭間にいる方々は、徐々に体を痛めて歩けなくなり、歩けなくなると食べられなくなり、やがて認知症などの脳血管疾患を発症して寝たきりになる恐れが出てきます。人生において歩けなくなってしまう状態をなるべく先送りにすることが、超高齢社会において大切と考えています」と話されました。



次に「足の爪は指先を保護するだけでなく、指先を敏感にし、力のバランスをとる機能を持っています。爪は、踏み出すときの床反力（ゆかはんりょく）と蹴り出すときの推進力を生むためにとても重要です」と動画をまじえて解説されました。「爪の長さは指の先端までまっすぐスクエアオフカットにしていた方がいいのですが、間違った切り方をしている人が多いのが現状です」と爪の切り方の重要性を説明され、「親指と人差し指で挟み込む力（足趾間力：そくしかんりょく）が弱くなると、足の機能が衰えるという結果が出ています。これは爪の変形が原因ともいわれており、爪は足の動きに影響を及ぼしているわけで、『爪は小さな運動器』といえるでしょう」とコメントされました。

講演後半では「楽天シニア」のアンケート結果紹介に移り、「爪のアンケートでも2万人を超える方に回答いただきました。爪水虫のコラムを読んだ後に医療機関の受診意欲を持った人が約5割（図2）に上り、爪水虫が治った後にしたいこととして『家族や友人の前で爪を隠さなくて済む』『水虫をうつさない』でいろんな人と交流したい』と2割の人が回答（複数選択、図3）するなど、コラムを通じて疾患啓発につながっていると感じています。歩かなくなると転倒リスクが高まり、さまざまな病気につながります。爪の治療・手入れをして歩くことで最後まで自分の足で歩ける体力を残していきましょう」と結ばれました。

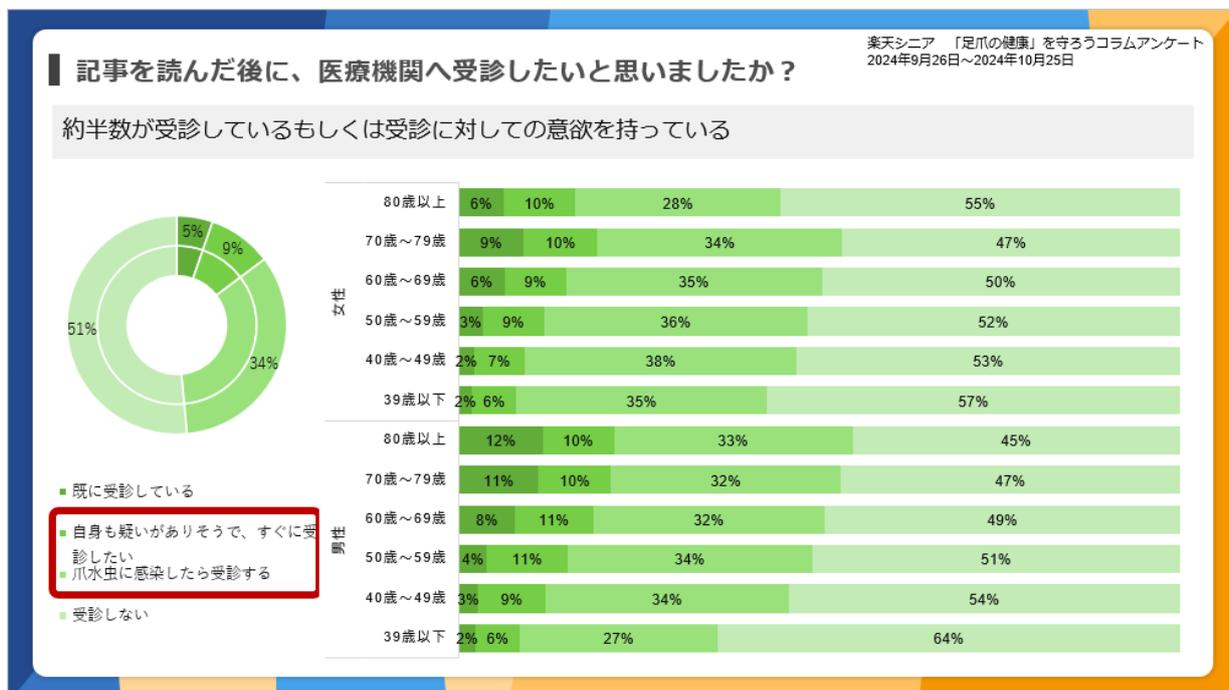


図2 記事を読んだ後に、医療機関へ受診したいと思いませんか？

楽天シニア 「足爪の健康」を守ろうコラムアンケート 2024年9月26日～2024年10月25日

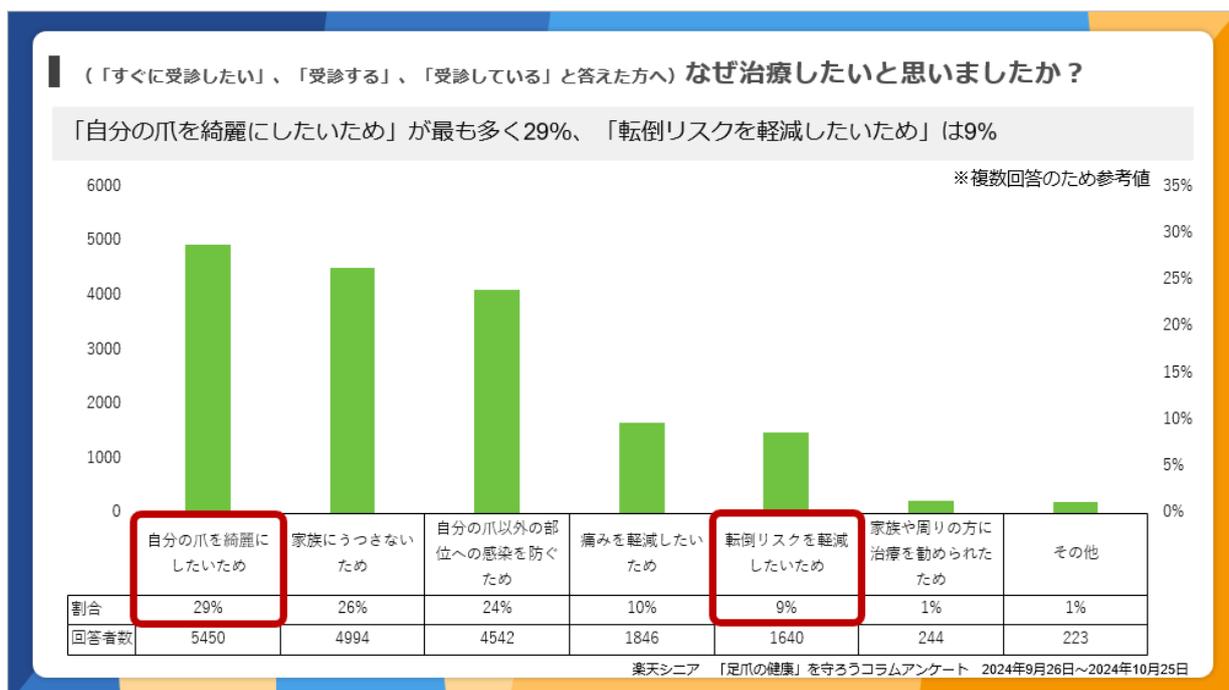


図3 (「すぐに受診したい」、「受診する」、「受診している」と答えた方へ)爪水虫が治ったら何をしたいですか

楽天シニア 「足爪の健康」を守ろうコラムアンケート 2024年9月26日～2024年10月25日

講演後のパネルディスカッションでは、大江先生と高山先生が診療科を横断して意見交換をされました。高山先生から大江先生への「爪の状態は歩行や運動機能に影響を与えるケースが少なくありません。フットケアやネイルケアを充実させるとロコモティブシンドローム予防につながるでしょうか」という問いに対し、大江先生は「科学的にも運動機能の低下と爪の変形は関係があると言われたのは新鮮でした。まさに『爪は小さな運動器』につきますね」とまとめられました。



また、科研製薬と楽天シニアの「満足プロジェクト」への期待として、大江先生が「スマホの登場で大規模調査が変わりました。今はシニアの方もスマホを活用していて調査しやすくなっているので、改めて企業との共同研究に取り組んでいきたいです」、高山先生からは「ビッグデータ解析や診療科横断的な解析手法が進んだら、爪を見るだけでロコモ診断ができるようになるかもしれません。将来的には爪の画像データを活用したAI診断なども検討してみたいですね」とコメントされました。

*ロコモティブシンドローム（ロコモ）

加齢に伴う筋力の低下や関節や脊椎の病気、骨粗しょう症などにより、「立つ」「歩く」などの移動機能が低下した状態をロコモティブシンドロームといい、2007年に日本整形外科学会が提唱後、啓発活動が活発化している概念です。日本整形外科学会コメント https://www.joa.or.jp/media/comment/locomo_more.html

**ロコモ度

ロコモチャレンジの評価指標で、3つのテスト結果からロコモの進行度合いを1～3で評価したもので、数字が大きいほど移動機能の低下が進んでいる状態を表しています。どの段階にも該当しない場合はロコモ度0（ロコモではない）となります。ロコモチャレンジ ロコモ度判定方法 <https://locomo-joa.jp/check/judge>

【メディアセミナー概要】

セミナー名： 人生 100 年時代に向けて「満足プロジェクト」発足記念セミナー
開催日時： 2025 年 3 月 14 日（金）13:00-14:15
主催： 科研製薬株式会社
登壇者： 科研製薬株式会社 営業本部長 小関 智之
楽天モバイル株式会社 「楽天シニア」事業長 平山 優 様
NTT 東日本関東病院 院長・ロコモチャレンジ！推進協議会委員長 大江隆史 先生
埼玉県済生会川口総合病院 皮膚科主任部長・足育研究会代表理事 高山かおる 先生

登壇者ご略歴



**NTT 東日本関東病院 院長・ロコモチャレンジ！推進協議会委員長
大江隆史 先生**

1985 年東京大学医学部医学科卒業、2002 年医学博士（東京大学）。
日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医取得。2007 年ロコモティブシンドローム（ロコモ）の提唱時より、その研究と普及活動に参画、2014 年ロコモチャレンジ！推進協議会委員長。2015 年 NTT 東日本関東病院入職、2021 年同院長。日本整形外科学会理事、日本運動器学会常務理事。



**埼玉県済生会川口総合病院 皮膚科主任部長・足育研究会代表理事
高山かおる 先生**

1995 年山形大学医学部卒業、2000 年医学博士（東京医科歯科大学）。体の土台である足の問題を根本から解決するため 2015 年足育（そくいく）研究会を立ち上げ、代表としてフットケアの啓発活動を行うフットケアのスペシャリスト。2015 年 4 月より埼玉県済生会川口総合病院皮膚科主任部長、足と爪のケア外来を開設。爪切難民の 0 を目指す。皮膚科専門医、日本フットケア・足病医学会理事、日本転倒予防学会理事。

本件に関する報道関係者からのお問合せ先

メディアセミナー・広報事務局（コスモ・ピーアール内）

E-mail: kaken_event@cosmopr.co.jp